SCB SHINKIN CENTRAL BANK

アジア業務相談室情報
Vol.１９

（２００３．３．３１）

信金中央金庫
SCB
総合研究所（アジア業務相談室）
〒104-0031　東京都中央区京橋 3-8-1
TEL.03-3563-4120　FAX.03-3563-7551

中国華東地域の投資環境

－浙江省嘉興市の現況－

（要旨）

アジア業務相談室では、毎年中国投資環境の把握のため上海を中心とした華東地域の訪問調査を実施しています。今年度は 2002 年 11 月 10 日（日）から 17 日（日）にかけて中国各地を訪問いたしました。

Vol.17「上海市の現況」、Vol.18「江蘇省蘇州市の現況」に続き、今回は「浙江省嘉興市の現況」について報告します。

１．浙江省

（１）2002 年の浙江省の GDP は 7,670 億元（成長率 12.3%）となり、広東省、江蘇省、山東省に続き全国第４位となりました。１人あたり GDP16,570 元は上海市、北京市、天津市に次ぐ第４位で、広東省、江蘇省、山東省を上回る大変豊かな地域です。

（２）浙江省の行政区画は東北部６市（杭州市、寧波市、嘉興市など）と西南部５市（温州、台州など）に分けられます。隣接する江蘇省では、外資が集中する省南部と中・北部の経済格差が拡大しつつありますが、地場資本による民営企業が発達する浙江省では、東北部と西南部の地域格差は比較的小さい状況にあります。外資企業の８割が集まる東北部では外国資本依存型、西南部では地場資本依存型の経済成長を遂げているといえます。

（３）2002 年の外国企業による投資は契約額 67.9 億ドル（前年比 35.4%増）、実行額 31.6 億ドル（同 42.9%増）と好調に増加しています。投資国は香港・台湾資本が 46.6%を占め、日本は第５位です。浙江省の外資企業 7,577 社の 43.4%が黒字、収入・利益とも前年実績を上回る企業が増加し経営状況は改善しています。

２．嘉興市

（１）長江デルタへの外国企業の投資は、上海市から江蘇省蘇州市・無錫市方面に集中しており、浙江省への進出は比較的少ない状況にあります。また、浙江省内の進出企業はこれまでインフラ整備が進んだ杭州市、寧波市の２大都市に集まる傾向がありました。

（２）上海市、杭州市の間に位置する浙江省嘉興市（省轄市）は長江デルタの中核都市である上海市・蘇州市・杭州市まで 100 ㎞圏内に立地します。上海－杭州－寧波、嘉興－蘇州を結ぶ高速道路が完成したことで、大都市への交通アクセスが優れ、投資コストが比較的割安な地域として最近注目されています。

（３）前回調査で取り上げた杭州市、寧波市に続き、今回の調査では嘉興市を視察しました。嘉興市内に国家級経済開発区はありませんが、各県および県級市に省級総合開発区が設置されています。同市対外経済貿易合作局の計らいにより、日系企業が集中する嘉興経済技術開発区（市轄区）、平湖経済開発区（平湖市）の管理委員会および開発区内日系企業３先を訪問しお話を伺うことができました。両開発区とも、日系企業誘致に力を入れており、少額の投資でも歓迎されます。長江デルタへの進出を検討する際の選択肢の一つに加えてよいでしょう。

浙江省

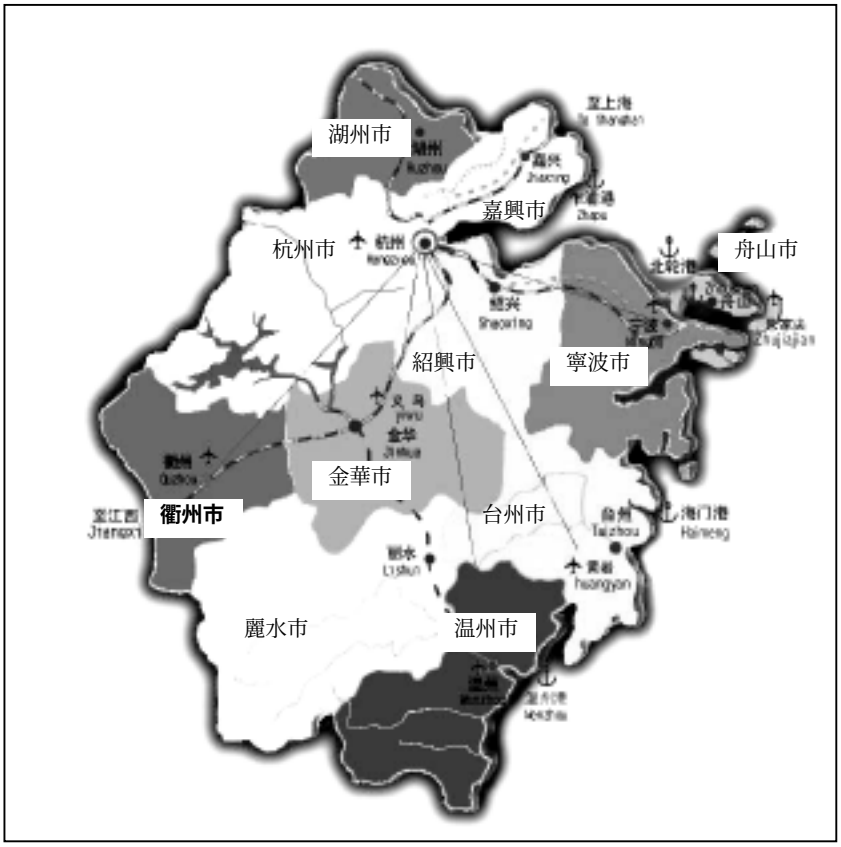
浙江省は上海市、江蘇省とともに長江デルタを形成し、産業集積が急速に進んでいる地域です。もともと国有企業が少ないことから、地場の民営企業が発達し、上海市の後背地として高い技術を保有する企業が多いといわれています。上海市、江蘇省に連なり長江デルタの南翼と呼ばれる省東北部だけでなく、温州市、台州市などを擁する西南部も地場産業が独自に発達し、競争力を持っています。

１．浙江省の概要

（1）地理・気候・人口

浙江省は長江デルタの南、東経 118 度から 123 度、北緯 27.12 度から 31.31 度の間に位置し、東は東シナ海、南は福建省、西は安徽・江西省、北は上海市・江蘇省に接します。省都杭州は上海市から約 180km、車で２時間弱、寧波市は上海市から約 350km、車で約３時間半、上海市に隣接する嘉興市は上海市から 90 km、車で１時間の距離にあります。浙江省は亜熱帯性気候に属し四季がはっきりしています。年平均気温は 15 度から 18 度、年間日照時間は 1,100 時間から 2,200 時間、年間降水量は1,000㎜から2,000㎜です。行政区画は東北部（６市）、西南部（５市）に区分されます。省都・杭州市と寧波市は省に準じた行政上の権限を持つ副省級市、他は地区級市に位置づけられます。

図表１：浙江省全図



（出所）浙江オンラインホームページ

図表２：各省轄市の状況

		面積 (k㎡)	人口 (万人)	人口密度 (人/ k㎡)	年平均気温 (℃)	年間降水量 (㎜)
全省合計		101,800	4,520	444		
東北部	杭州市	16,596	629	379	17.3	1,512.5
	寧波市	9,365	543	580	17.6	1,614.4
	嘉興市	3,915	332	848	16.8	1,262.2
	湖州市	5,817	256	441	16.8	1,338.6
	紹興市	8,256	433	525	17.1	1,535.7
	舟山市	1,440	98	681	17.1	1,584.6
西南部	温州市	11,784	739	627	18.9	1,861.4
	金華市	10,918	448	410	18.1	1,441.6
	衢州市	8,836	244	276	17.1	1,779.9
	台州市	9,411	549	583	18.3	1,755.8
	麗水市	17,298	249	144	18.8	1,529.0

（備考）人口は 2001 年末、年平均気温・年間降水量は 97-2001 年の平均
（出所）浙江統計年鑑

（2）国内総生産（GDP）と産業構造の変化

2002 年の浙江省の GDP は 7,670 億元（前年比 12.3%増）となり、GDP 総額は広東省、江蘇省、山東省に続き全国第４位となりました。１人あたり GDP16,570 元は上海市、北京市、天津市に次ぐ第４位で、広東省、江蘇省、山東省を上回る豊かな地域です。

図表３：浙江省における GDP の産業別割合の推移　（単位：億元、%、元）

	GDP 総額	産業別割合			１人あたり GDP
		第１次産業	第２次産業	第３次産業	
1980	180	65（36.0）	84（46.8）	31（17.2）	470
1985	428	124（29.0）	199（46.5）	105（24.5）	1,063
1990	898	225（25.0）	408（45.5）	265（29.5）	2,122
1995	3,525	560（15.9）	1,834（52.0）	1,131（32.1）	8,074
2000	6,036	664（11.0）	3,183（52.7）	2,189（36.3）	13,309
2001	6,748	695（11.0）	3,470（51.3）	2,593（38.4）	14,655
2002	7,670	680（ 8.8）	3,925（51.2）	3,065（40.0）	16,570

（備考）１．カッコ書きは GDP に占める各産業の割合
２．浙江統計年鑑、2002 年浙江省統計公報にもとづき作成

1980 年に省内 GDP の 36.0%を占めていた第１次産業は 2002 年には 8.8%と初めて 10%を下回りました。第２次産業は 1980 年に既に省内 GDP の 46.8%を占めており、その後徐々に割合を高め 1993 年に初めて 50%を超えました。省内 GDP において最も伸びが著しいのは第３次産業です。第３次産業は 1980 年 17.2%でしたが、2002 年には 40.0%まで上昇しています。

図表４：省轄市別 GDP 等（2001 年）

		GDP 総額（億元）	前年比（%）	１人あたり GDP（元）	前年比（元）	固定資産総投資額（億元）	前年比（元）	社会消費財小売総額（億元）	輸出額（億ﾄﾞﾙ）	前年比（%）
東北部	杭州市	1,568	13.4	25,074	12.2	462	22.6	459	72.8	4.6
	寧波市	1,313	11.6	24,213	11.1	321	30.7	414	62.5	20.8
	嘉興市	604	11.7	18,223	11.4	192	7.0	224	22.2	17.3
	湖州市	385	1.9	15,031	1.6	94	27.4	159	5.8	24.4
	紹興市	823	5.5	18,997	5.3	145	10.6	239	18.8	46.8
	舟山市	127	11.1	12,894	11.3	38	34.4	65	4.1	-0.7
西南部	温州市	932	12.6	12,637	11.2	241	32.2	439	15.0	33.9
	金華市	598	9.4	13,358	8.9	137	76.4	189	6.3	41.8
	衢州市	176	8.9	7,452	11.4	63	47.8	84	0.9	0.0
	台州市	748	10.7	13,651	10.2	117	30.9	202	11.8	35.7
	麗水市	159	16.2	6,393	15.9	62	42.3	84	1.5	9.4

（備考）浙江統計年鑑にもとづき作成

浙江省の地区級市別 GDP（2001 年）は杭州市、寧波市、温州市、紹興市、台州市、嘉興市、金華市の順となります。杭州市と寧波市はともに GDP は１千億元を超え、１人あたり GDP も２万元を上回ります。

浙江省の北に位置する江蘇省では上海に近接する省南部と中・北部の１人あたり GDP の格差が拡大しつつあり、2001 年実績で最大の蘇州市（30,384 元）と最小の宿遷市（4,377 元）では約７倍の格差があります。一方、地場資本による民営企業が勃興する浙江省では、長江から離れた西南部も工業地域として発展しています。１人あたり GDP が最大の杭州市（25,074 元）と最小の麗水市（6,393 元）の格差は約４倍です。外資企業の約８割が集まる東北部は外国資本依存型、民営企業の多い西南部は地場資本依存型の経済成長を遂げているといえます。

２．浙江省への投資の現況

（1）全体動向

2002 年の外資投資は、契約ベースで 67.9 億ドル（前年比 35.4%増）、利用外資額 31.6 億ドル（前年比 42.9%増）となりました。中国の WTO 加盟を反映して契約ベース、利用ベースとも高い伸びを示しています。

業種的には第２次産業に対する投資が全体の 81.1%を占めています。国別では香港・台湾資本が 46.6%を占めます（B.V.I＝英領バージン諸島は台湾系資本が多く、実質的には５割を超え

ると思われます）。日本は 4.6 億ﾄﾞﾙで第５位につけています。

図表５：2002 年産業別投資額
（単位：百万ﾄﾞﾙ）

項目	投資契約額
第１次産業	98.6
第２次産業	5,503.1
第３次産業	1,187.4
合計	6,787.1

(備考)浙江統計年鑑、2002 年浙江省統計公報にもとづき作成

図表６：2002 年国別投資額
（単位：百万ﾄﾞﾙ、%）

投資国	投資契約額
香港	2.301.4（33.9）
台湾	864.9（12.7）
米国.	688.7（10.1）
B.V.I.	662.0（ 9.8）
日本	461.0（ 6.8）
ＥＵ	410.1（ 6.0）

図表７：投資実行額推移
（単位：百万ﾄﾞﾙ）

年	投資実行額
1997	1,503
1998	1,095
1999	1,533
2000	1,613
2001	2,212
2002	3,160

（２）地区別動向

浙江省への外国投資はこれまで杭州市、寧波市の２大都市に集中する傾向がありました。省レベルの行政権限を持つ両市は社会インフラ充実し、高等教育機関も多く優秀な人材を募集しやすいためと考えられます。また、ここ数年は都市間を結ぶ高速道路や一級国道の整備が急速に進んだことで、上海市および江蘇省に近接し杭州市・寧波市よりも投資コストが割安な地域（嘉興市、湖州市、紹興市）への投資が増加しつつあります。

図表８：2002 年省轄市別投資状況

		認可件数		投資契約額		投資実行額	
		(件)	前年比(%)	(億ﾄﾞﾙ)	前年比(%)	(億ﾄﾞﾙ)	前年比(%)
全省合計		3,364	45.6	67.9	35.4	22.1	42.9
東北部	杭州市	587	21.5	9.7	-6.1	5.2	3.7
	寧波市	1,017	26.2	21.3	9.1	11.1	26.4
	嘉興市	475	62.7	11.7	29.5	4.4	64.2
	湖州市	287	56.8	9.6	104.2	3.6	71.4
	紹興市	484	130.5	8.0	178.1	3.8	141.9
	舟山市	19	46.2	0.2	-38.7	0.0	-55.1
西南部	温州市	124	65.3	1.2	61.9	0.8	45.6
	金華市	161	73.1	2.9	194.4	1.0	210.0
	衢州市	25	-10.7	0.4	82.1	0.1	35.9
	台州市	173	61.7	2.8	113.8	1.2	127.6
	麗水市	12	-20.0	0.2	-11.1	0.1	22.6

（備考）浙江省外経貿庁「浙江省各市利用外商直接投資情況表」にもとづき作成

（３）外資企業の経営状況

2002 年度の浙江省内の外資企業 7,577 社（操業を開始していない企業を含む）のうち 43.4%が黒字、20.7%が赤字になっています。営業収入、利益総額ともに前年実績を上回り、経営状況は改善しています。

図表９：2002 年省轄市別外資企業の経営状況

		外資生産企業数			営業収入		利益総額		自営輸出額	
		(社)	ｳﾁ黒字(社)	ｳﾁ赤字(社)	(億元)	前年比(%)	(億元)	前年比(%)	(億ﾄﾞﾙ)	前年比(%)
合計		7,577	3,286	1,567	2,251	13	195.0	27	92.0	30
東北部	杭州市	1,745	752	398	782	18	64.1	54	24.9	19
	寧波市	2,364	716	352	430	0	31.2	0	24.2	33
	嘉興市	664	340	172	223	18	13.4	32	14.0	24
	湖州市	305	121	77	61	15	3.4	7	2.2	46
	紹興市	825	561	255	295	18	16.6	19	10.6	62
	舟山市	72	46	26	25	9	1.2	77	1.2	5
西南部	温州市	662	381	107	129	12	6.7	29	6.3	22
	金華市	338	134	100	49	17	2.2	342	2.3	33
	衢州市	77	21	28	9	0	-0.1		0.5	10
	台州市	310	130	26	71	0	3.0	75	5.4	40
	麗水市	84	53	7	57	3	1.2	12	0.3	43

（備考）浙江省外経貿庁「浙江省外商投資企業生産経営情報通報 2002 年度」にもとづき作成

嘉興市

長江デルタへの外国企業の投資は、上海市から江蘇省の蘇州市、無錫市、南京市の方向に特に集中する傾向があり、当アジア業務相談室が実施している信用金庫取引先の海外進出状況調査においても、上海市 142 先、江蘇省 104 先に比べて、浙江省は 42 先と少ない状況にあります。しかしながら、上海－杭州－寧波、嘉興－蘇州を結ぶ高速道路が完成し、交通アクセス面の改善が進んだことで、ここ１～２年浙江省への直接投資額は急速に増加しています。

前回調査では、浙江省の杭州市（省都）と寧波市の２大都市を訪問しましたが、今回は上海市と蘇州市に隣接する嘉興市（省轄市）を訪問しました。嘉興市は長江デルタの中核都市である上海市、蘇州市、杭州市の３大都市までいずれも 100km 以内という好立地で投資コストも比較的割安なため注目されています。同市対外経済貿易合作局では、嘉興市の現況について聴取しました。

１．嘉興市の現況

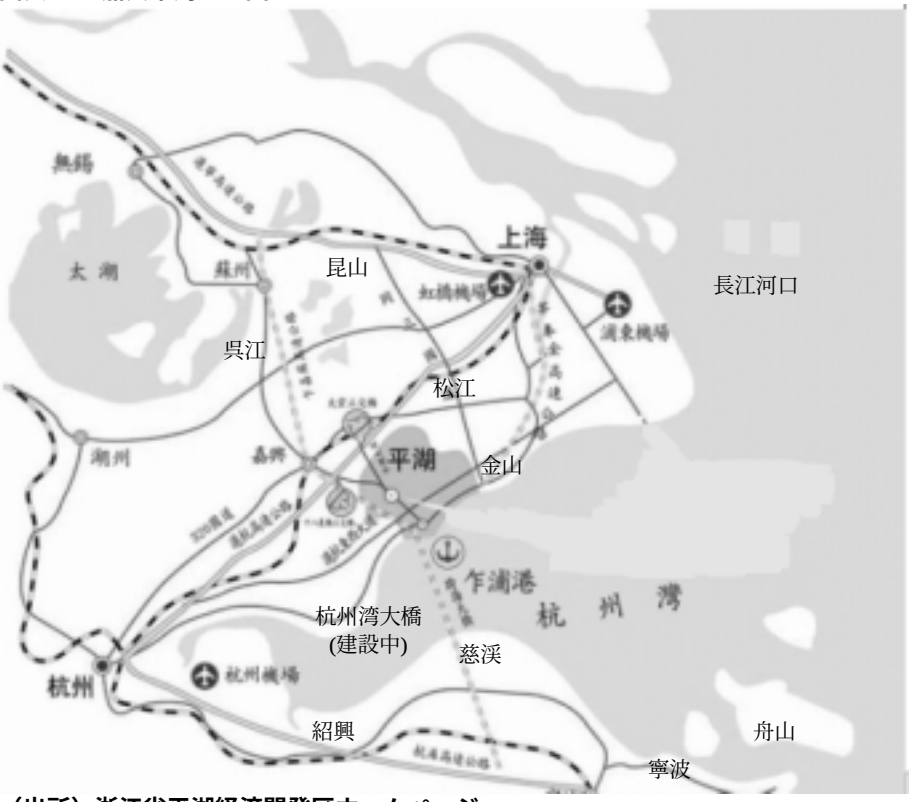
（1）嘉興市の位置

嘉興市は浙江省東北部に位置し、東は上海市（松江区）、西は浙江省杭州市（余杭区）、北は江蘇省蘇州市（呉江市）、南は杭州湾に接します。

華東デルタ地区の中核都市である上海市、杭州市、蘇州市からいずれも 100 km圏内にあり、滬杭高速公路（上海－杭州高速道路）および乍嘉蘇高速公路（乍浦－嘉興－蘇州高速道路）が開通したことで各市へ１時間で到達可能になっています。

嘉興市の行政区画は２市轄区（秀洲区、秀城区）、３市（平湖市、海寧市、桐郷市）、２県（嘉善県、海塩県）に分かれます。

図表 10：嘉興市周辺地図



（出所）浙江省平湖経済開発区ホームページ

（2）嘉興市経済と投資環境（嘉興市経済貿易合作局より聴取）

イ．2001 年のＧＤＰは 609 億元（2002 年(速報値)は 706 億元）、１人あたり GDP は 2,000 米ドルを超えており、中国国内では経済が比較的発達した地域といえる。

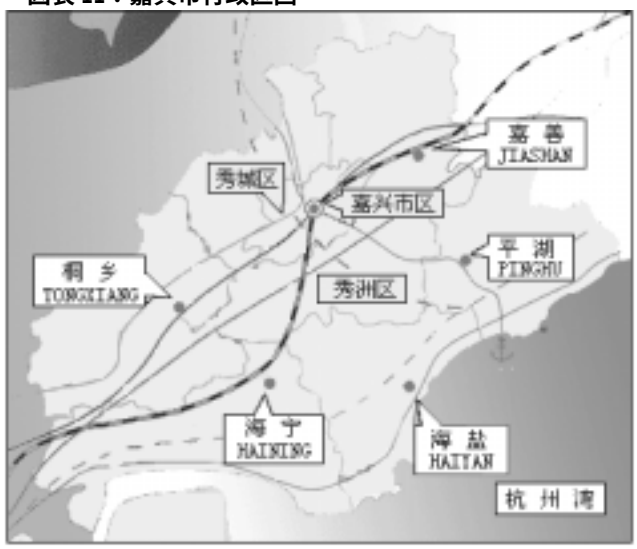
ロ．嘉興は地理的条件が有利であり、交通が発達している。高速道路を利用すれば上海市の中心部からわずか１時間で到達可能であり、工業はもちろん、生活、旅行にも適している。距離的には江蘇省の蘇州、昆山とほぼ同条件だが、嘉興にはまだ開発されていない土地が多く、相対的にコストが安い。市政府は外資企業に誘致に力を入れており、進出企業に対するサービス体制も充実している。

ハ．これまで嘉興に進出した日系企業は 224 社ある。投資総額は 5.6 億米ドルに達し、払込み資本金は 3.5 億米ドルとなっている。地域は市轄区と平湖市に集中する。

ニ．2001 年の輸出総額は 22 億米ドルである。日系企業は技術が高く、生産管理も優れている。嘉興の安価な投資コスト（土地、労働力、水道、電力等）を組み合わせれば、輸出も増え大いに利益を得ることができるだろう。

ホ．嘉興にはすでに東西に滬杭高速公路（上海－杭州高速道路）が開通している。乍浦港（平湖市）から蘇州まで南北に結ぶ乍嘉蘇高速公路（乍浦－嘉興－蘇州高速道路）も浙江省側（嘉興）は 10 月に開通し、江蘇省側（蘇州）も 2002 年末に完成した。乍浦港と寧波の慈渓市を結ぶ杭州湾大橋も 2006 年末に完成する予定である。これにより、嘉興は長江デルタの中核都市である上海、蘇州、杭州、寧波に１時間以内で到達可能となる。

図表 11：嘉興市行政区画



（出所）嘉興市中国嘉興招商網ホームページ

へ．市政府では 30 万トン／日の処理能力を有する処理汚水処理施設を建設した。パイプラインを市内の各市・開発区に張り巡らしているので、軽度であれば汚水を排出するプロジェクトも受け入れることができる。また、当市には５万トンのコンテナ船が接岸可能な海港の乍浦港（嘉興港への改名を国務院が認可済）があり、河港（張家港）しか持たない蘇州より輸出に有利である。港湾施設の有効活用を図るため、市政府では嘉興港区内に輸出加工区設置を計画している（省政府の同意を得て中央政府に申請中）。

ト．当地の国有企業の比率は５％に過ぎず、残りの 95%は外資企業か地元の民営企業であることも外資企業の進出検討にあたり有利な要因となろう。

図表 12：嘉興市各区・市・県の概況（2001 年）

	面積 (k㎡)	人口 (万人)	GDP (億元)	１人あたり GDP (元)	固定資産総投資額 (億元)	工業総生産額 (億元)	うち外資 (億元)	各種専門技術人員 (万人)	中級以上 (万人)
市轄区	968	79	142	17,976	126	142	40	1.5	0.6
平湖市	537	48	90	18,561	9	132	50	1.3	0.3
海寧市	668	64	135	21,134	19	115	18	1.4	0.3
桐郷市	727	66	128	19,507	20	121	16	0.8	0.2
嘉善県	507	38	78	20,337	10	51	21	0.6	0.2
海塩県	508	37	67	18,363	8	81	11	1.5	0.4

（備考）浙江統計年鑑にもとづき作成

２．嘉興市の開発区

図表 12：嘉興市の総合開発区

名称	認可ﾚﾍﾞﾙ	所在地	設立	計画面積	特徴
嘉興経済開発区	省級	秀洲区	1992 年	60k ㎡	浙江省５大重点開発区
嘉興市秀洲工業区	市級	秀洲区	1997 年	16k ㎡	開発区内に乍嘉蘇高速公路出口
嘉興市秀城工業区	市級	秀城区	2001 年	20k ㎡	滬杭高速公路嘉興東出口付近
平湖経済開発区	省級	平湖市	1996 年	28k ㎡	日系電子、アパレル企業が多数進出
嘉興港区	省級	平湖市	1993 年	54k ㎡	港湾施設が充実
海寧経済開発区	省級	海寧市	1992 年	15k ㎡	革製品、ニット製品専門の工業園を持つ
桐郷経済開発区	省級	桐郷市	1992 年	8k ㎡	320 国道沿い、滬杭高速公路も近い
嘉善経済開発区	省級	嘉善県	1993 年	20k ㎡	台湾系企業が多数進出
海塩経済開発区	省級	海塩県	1992 年	14k ㎡	杭州湾大橋(建設中)出口付近に新区を設置

（備考）嘉興市対外貿易経済合作局「嘉興招商引資」等にもとづき作成

嘉興市内には国家級経済開発区はありませんが、各県および県級市に中核となる省級総合開発区が設置されています。市轄区内には嘉興経済開発区以外に、2 つの市級工業区が高速道路出口付近に新設されています。

今回の調査では、同市対外経済貿易合作局の計らいにより、日系企業が集中する嘉興経済技術開発区（市轄区）、平湖経済開発区（平湖市）の管理委員会および開発区内日系企業３先を訪問しお話を伺うことができました。両開発区とも、日系企業誘致に力を入れており、少額の投資で

も歓迎されます。長江デルタへの進出を検討する際の選択肢の一つに加えてよいでしょう。

（1）嘉興経済開発区

イ．嘉興経済開発区管理委員会

（イ）嘉興経済技術開発区（以下、JXEDZ）は 92 年８月に浙江省政府により最初に批准された、浙江省の５大重点開発区の一つである。開発区は嘉興市中心部から３㎞の距離にあり、開発計画面積は 60k ㎡ある。開発区内企業 600 社のうち 120 社が外資企業（日本、韓国、米国、フランス、台湾等）で、投資総額は契約ベースで 9.4 億ドル、実行ベース 5.8 億ドルに達している。

（ロ）開発区内は３つの工業区、１つの高等教育区、３つの商業住宅区に分かれる。工業区は、ハイテク産業区、軽工業紡織工業区、機械化工工業園があり、各産業のニーズに合致した専門的なサービスが受けられる。

（ハ）JXEDZ は上海、蘇州、杭州まで１時間の距離に立地しながら、周辺の同レベルの開発区よりも投資コストが低い。工業用地の使用権（50 年）の譲渡価格は 1 ㎡につき 11 ドルに抑えられている。標準工場の購入価格は 1 ㎡につき 1,200～1,300 元、賃貸の場合は１㎡８～12 元／月となっている。標準工場の広さは 1,000、2,000、2,500、5,000 ㎡と各種揃っている。人件費は、ワーカーで月給 400～800 元、高級エンジニアで月給 2,000～2,500 元程度である。嘉興市轄区の人口 78 万人で、労働力の供給に不安はない。区内には 13 の高等教育機関（大学・短大・専門学校）があり毎年約 3,600 人の卒業生が供給されるため、専門人材も十分確保できる。

（ニ）日系企業に対しては日本語対応可能な専任スタッフが進出手続きをサポートする。

ロ．区内企業Ａ社（ボイラー製造、日系大手が 50%出資する合弁企業）

（イ）Ａ社は中国大手ボイラーメーカーとの合弁で 96 年に設立された合弁企業で、投資総額 1,000 万ドル、登録資本金 820 万ドルである。合弁企業設立の目的は発電所用大型ボイラーの建設で、日方の技術力と中方の中国市場での営業力・生産力を活用して最新鋭のプラントを建設している。嘉興に進出したのは、中方パートナーが内陸部に立地する企業のため、できれば沿海部に立地させたいと考えてのことである。

（ロ）中国の電力需要の伸びは経済成長率と同じ８～10%といわれている。発電所建設プロジェクトが多数計画されているため、当社の業績は順調である。今年は 60 万 kW の発電所（中国で最新鋭のプラントとなる大型案件）の受注に成功した。ただ、投資が過大になりバブルの兆しが表れつつある点には注意している。

（ハ）生産システムについても日本のやり方を教えるが、最終的には先方が中国規格に合うようにアレンジする。受注、製作、据付はすべて中国で行う。設計のみ日中共同で行うが、図面のやり取りはすべてメールで行っている。通信設備の発達により、中国で引いた図面のレビューは容易になった。

（ニ）炭素鋼など一般的な材料は中国国内で調達できるが、高級材料（ステンレス鋼など）は品質が不十分なため日本・ヨーロッパから輸入する。輸入材は量的には僅かだが、値がかさむため、金額的には輸入材が原材料費の半分を占める。外注先はほとんど地場企業で、日系企業との付き合いはない。価格は日本の半分以下で済む。完成品の対日輸出は、こちらで JIS 規格を取得したもの等、日本と規格が同じものについて可能である。

（ホ）本社には総務、経理、セールス部門が入り、別の場所に工場がある。正社員は 80 名、臨時工を加えると 200 名前後で、毎年 10 名程度増加している。日本人は昨年までは５～６名いたが、少しずつ人数を減らし現在は総経理１名のみとした。こちらでの成功は、責任と権限を明確にしてマネジメント面を含めた現地化がスムーズに進められるかどうかにかかっている。

（へ）当地は上海と比べるとかなり投資コストがかなり安い。上海と杭州の中間に位置しどちらに行くも便利がいい。住居は嘉興で借りたアパートに住んでいる。来た当初は不安があったが今は全く問題ない。治安は良く、夜一人歩きしても恐いと思ったことはない。近くにある大きなスーパーマーケットに行けば欲しいものはほとんど手に入るため、日本から物資を持ってくる必要性を感じることはない。自動車は事故を起こした場合を考えると恐くて運転できない。休日はゴルフをすることが多い。嘉興には打ちっぱなしはあるが、コースは上海

か杭州まで行かなければない。

ハ．区内企業Ｂ社（ワイヤーハーネス製造、日系 90%の合弁企業）

（イ）Ｂ社は日本側 90%、中国側 10%の出資により 96 年 3 月に設立された合弁企業で、同年 5 月より操業を開始している。主に家電、事務機、情報通信機器、産業用機械に使用するワイヤーハーネスとインターフェイスケーブルを製造する。主要販売先は、日系大手家電メーカーが中心で、2000 年度の売上高 1.45 億元を超え、輸出額は 1,600 万ドルを突破した。99 年 11 月に ISO9002 を取得するなど、世界水準の生産設備と品質管理を行っている。

（ロ）主力納品先である大手企業の上海進出に伴い、上海近辺に工場を設置することになり上海付近（杭州、寧波など）の開発区を物色した。たまたま嘉興に立ち寄ったところ、開発区の対応の仕方が非常によかったこと、上海と杭州の両方を睨むことが可能であることが決め手となり嘉興への進出を決定した。進出後、高速道路の開通により、立地条件は格段に向上した。最寄りの乍浦港が国際港であることも魅力がある。

（ハ）工場は開発区から標準工場(4 階建、のべ 6,400 ㎡)を借りている。家賃は昨年まで１ヵ月 13.5 元/㎡だったが、契約更改時に交渉した結果、11 元/㎡に引き下げられた。建物は６年前に建てたものだがひび割れ等の傷みが目立つ。生産設備はほとんど日本から持ち込んだ。台湾製のものはあるが中国製は使っていない。

（ニ）従業員は現在約 850 名いる。もともとは地元の人間を採用していたが、最近は人が集まりにくくなったため地方（安徽省）の人も採用している。開発区の労働局の紹介で、現地で面接を行う。採用が決まると、労働局が必要な手続きをしてくれるだけでなく、従業員用の寮も用意してくれる。ワーカーの給料は 600～700 元で、地方採用者はそこから寮費を差し引いたものを受け取る。福利厚生費は給料の 25.8%を負担している。ただし、進出企業が増加しているため、日本語のできる人材やエンジニアを確保するにはある程度負担しなければならない。従業員は言われたことはやるがそれ以上のことは期待できない。従業員が工具を持ち去るようなことはほとんど無い。

（ホ）国内販売の増加により国内販売比率は 30%から 40%に上昇した。将来的には 50%程度まで高まる可能性がある。中国では価格と品質が折り合えば、日本の系列外に販路を拡大するチャンスがある。

（ヘ）日本人は５名おり、全員がホテル住まい。居住環境は以前よりも大分改善した。最近は日本企業が現地生産したものが入手しやすくなった。土曜日も工場が稼動するため上海に行くことはあまりない。楽しみは月１回、日本人同好会のゴルフコンペに参加することである。

（２）平湖経済開発区

イ．開発区管理委員会

（イ）平湖開発区（以下、PEDZ）は 96 年８月に市級開発区として設立され、2000 年７月に省級開発区に昇格した。第１期開発区画の８k ㎡がほぼ埋まったため、第２期開発区画 20k ㎡の追加がすでに認められている。重点産業にはアパレル、電子電機、重化学工業（港湾地区）が挙げられる。

（ロ）同じ嘉興市でも、嘉興市轄区周辺は韓国企業が比較的多く、嘉善県は台湾企業の進出が目立つ。平湖は日本企業に好まれており、日本との結びつきが次第に強くなっている。現在、平湖市には日系企業 86 社が進出している。平湖企業との合弁形態のアパレル関連企業が多く、上海で上場する上海茉織華（マツオカ）はもともと平湖企業の企業である。日商岩井、丸紅、ユニクロの関係工場もある。

（ハ）日系企業が平湖を選ぶ理由は以下の 3 点である。

①平湖は東に上海、西に杭州、北に蘇州、南に寧波が隣接し交通の便が非常に良い。

②江蘇省の蘇州、昆山、無錫新区は見た目がきれいだが、その分投資コストも高い。一方、平湖は比較的安い。

③平湖市政府および市民が非常に親日的であり、日本人にとり居住環境が良いこと。平湖には現在約 200 人余りの日本人が居住し、日本料理店も増えている。

さらに付け加えるとすれば、日本電産のような有力企業がグループ（６工場）で進出したことで関連する日系部品メーカーが隣接地への進出を選択する傾向が表れている。

（ニ）PEDZ は設立後間もないため、区内の日系企業は 15 社前後に過ぎないが、ここ数年日本電産、日電産コパル、川崎製鉄などの日本企業が相次いで進出している。省政府から唯一認可された日本産業園区として区内に日本投資工業園区を設置して日系企業誘致に努めている。PEDZ は投資額の大小にかかわらず日系企業の進出を歓迎する。

（ホ）PEDZ 内の土地使用権（50 年）の譲渡価格は１㎡ 10 米ドル前後である。標準工場は、面積 1,000 ㎡の物件を４室用意しており、賃貸料は１㎡につき 1 ヵ月 10 元となる。ワーカーの人件費は福利厚生費込みで 1,000 元程度。市の人口は 50 万人（うち都市部 12 万人）と労働力は豊富である。PEDZ では語学学校の日本語クラスを増設することで日本語を話す人材養成に力を入れている。

ロ．区内企業Ｃ社（鋼板加工販売、日系 97%出資の合弁企業）

（イ）Ｃ社が進出した 94 年当時、当地に日系企業はほとんどなかった。親会社は日本でいろいろな顧客に鋼板を販売している。その客が中国に進出しても日本でのサービスと同じ納入方法で、製品を提供するために、中国に鋼板の加工センターを設立することにした。

（ロ）Ｆ／Ｓを作成した 93 年当時は、日系顧客はほとんどおらず、販売先を確保する必要があった。合弁パートナーとなった中国企業（変圧器メーカー）が日本向け販売用の材料を必要としており主要販売先として見込めるだけでなく、平湖市からも是非こちらへ来てほしいとの誘いもあったことから、10 ヵ所ほどあった候補地の中から最終的に平湖を選んだ。パートナーには土地、建物を現物出資してもらった。

（ハ）平湖は交通の便がよく物流基地としての将来性があることを見込んでいた。98 年の 12 月に上海－杭州－寧波を結ぶ高速道路が開通するまでは上海まで２～３時間かったが、今は 1 時間、浦東空港へも１時間 15 分で行ける。Ｃ社から鋼板の供給を受ける取引先は上海市浦東・松江、江蘇省常州・無錫・蘇州・昆山・呉江・南通、浙江省平湖・杭州等当地から 100 ㎞圏内に立地する。現在、長江デルタへの外資企業の進出加速につれ顧客数が増加し、現在 240～250 社と取引している。原材料の鋼板は水島から平湖の乍浦港へ直送し、上海港は通常使用していない。乍浦港は距離が 10㎞ と近いだけでなく、第２期工事で建設したコンテナ埠頭にコンテナヤードが完成したことでコンテナの積み卸しが可能になった。乍浦－蘇州高速道路も間もなく開通する予定（注．2002 年 12 月に開通済み）であり、物流面は大変充実している。

（ニ）競合先はほとんどが日系企業、いずれも上海市に立地し浙江省内にはない。例えば、江蘇省の無錫に納入する場合、上海からよりも距離的には遠くなるものの、中国では多少距離が長くても陸送運賃はほとんど変わらないため、コスト競争力に差が出ない。

（ヘ）平湖は人口 50 万人の小都市で流動人口が少なく治安が良いため、外国人も安心して住める。上海の住宅事情（高い家賃）を考えると平湖に住まざるを得ない。現在、日本人常駐者５人のうち４人が平湖に在住、上海に住むのは妻帯者１名のみである。平湖は大都会でないため、文化的なものまで求めるのは無理だが、食べ物もこちらのもので何とかなり、住んで仕事をする分には支障がない。また、困ったことがあっても地元の行政にいえばサポートしてくれる。

（ホ）Ｃ社は中国メーカーが供給できない部材の生産に特化しているため、原材料（鋼板）の中国調達は難しく 85%を日本から輸入している。当社が供給する部材を使用して生産される製品の６割は国内市場向けとなり、４割は国外に輸出される。最終的に輸出される製品の原材料は関税・増値税免税で輸入している。免税輸入手続きは非常に煩雑で税関とのトラブルが発生しやすいため、専門の人員を張りつけて対応している。税関トラブルに伴う入荷の遅れにより生産工程に狂いが生じることを嫌がる企業はあえて有税で入れて納期を守ることもあるようだ。

（佐藤　克己）

本ﾚﾎﾟｰﾄは、情報提供のみを目的とした上記時点における当研究所の意見です。施策実施等に関する最終決定は、ご自身の判断でなさるようにお願いします。また、当研究所が信頼できると考える情報源から得た各種データ等に基づいてこの資料は作成されておりますが、その情報の正確性および完全性について当研究所が保証するものではありません。

（参考資料）

中国の主要経済データ

１．全国

		単位	1999年	増減率	2000年	増減率	2001年	増減率	2002年(速報値)	増減率
国内総生産		億元、%	82,054	7.1	89,404	8.0	95,928	7.3	102,398	8.0
	第１次産業	億元、%	14,212	2.8	14,212	2.4	14,610	2.8	14,883	2.9
	第２次産業	億元、%	40,806	8.1	45,488	9.6	49,064	8.7	52,982	9.9
	第３次産業	億元、%	27,036	7.5	29,704	7.8	32,254	7.4	34,533	7.3
工業生産額(付加価値ベース)		億元、%	35,357	8.5	39,570	9.9	42,607	8.9	45,935	10.2
固定資産投資総額		億元、%	29,876	5.2	32,619	9.2	37,213	14.1	43,202	16.1
社会消費財小売総額		億元、%	31,140	6.8	34,153	9.7	37,595	10.1	40,911	8.8
消費者物価指数(前年１００)			98.6	***	100.4	***	100.7	***	99.2	***
輸出入総額(通関ベース)		億ﾄﾞﾙ、%	3,607.0	11.3	4,743.0	31.5	5,098.0	7.5	6,207.9	21.8
	輸出総額	億ﾄﾞﾙ、%	1,949.0	6.1	2,492.0	27.8	2,662.0	6.8	3,255.7	22.3
	輸入総額	億ﾄﾞﾙ、%	1,658.0	18.2	2,251.0	35.8	2,436.0	8.2	2,952.2	21.2
外商直接投資	契約件数	件	17,100	-13.8	22,347	32.1	26,139	16.0	34,171	30.7
	契約額	億ﾄﾞﾙ、%	412.0	-20.9	624.0	51.3	692.0	10.4	828.0	19.6
	実行額	億ﾄﾞﾙ、%	404.0	-11.4	407.0	1.0	468.0	14.9	527.0	12.5

２．浙江省

		単位	1999年	増減率	2000年	増減率	2001年	増減率	2002年(速報値)	増減率
国内総生産		億元、%	5,365	10.0	6,036	11.0	6,748	10.5	7,670	12.3
	第１次産業	億元、%	632	3.3	664	4.5	695	4.1	680	3.3
	第２次産業	億元、%	2,903	11.4	3,183	11.8	3,460	11.0	3,925	12.3
	第３次産業	億元、%	1,830	9.8	2,189	11.6	2,593	11.9	3,065	13.4
工業生産額(付加価値ベース)		億元、%	1,268	15.4	1,560	23.1	1,874	20.1	2,357	25.7
固定資産投資総額		億元、%	1,958	8.7	2,350	20.0	2,835	20.6	3,458	22.0
社会消費財小売総額		億元、%	2,076	8.7	2,299	10.7	2,556	11.2	2,878	12.6
消費者物価指数(前年１００)			98.8	#REF!	101.1	***	99.8	***	***	***
輸出入総額(通関ベース)		億ﾄﾞﾙ、%	183.0	23.2	278.3	52.1	328.0	17.9	419.6	27.9
	輸出総額	億ﾄﾞﾙ、%	128.7	18.5	194.4	51.0	229.8	18.2	294.2	28.0
	輸入総額	億ﾄﾞﾙ、%	54.3	36.1	83.9	54.5	98.2	17.0	125.4	27.7
外商直接投資	契約件数	件	1,113	15.3	1,642	47.5	2,310	40.7	3,364	45.6
	契約額	億ﾄﾞﾙ、%	21.5	17.5	25.1	16.7	50.2	100.0	67.9	35.3
	実行額	億ﾄﾞﾙ、%	15.3	15.9	16.1	5.2	22.1	37.3	31.6	43.0

３．浙江省嘉興市(平湖市、海寧市、桐郷市、嘉善県、海塩県を含む)

		単位	1999年	増減率	2000年	増減率	2001年	増減率	2002年(速報値)	増減率
国内総生産		億元、%	472	***	541	***	604	12.3	706	13.8
	第１次産業	億元、%	55	***	60	***	63	5.7	***	2.1
	第２次産業	億元、%	281	***	318	***	334	13.2	***	13.5
	第３次産業	億元、%	135	***	163	***	207	13.1	***	13.1
工業生産額(付加価値ベース)		億元、%	***	***	***	***	322	13.6	***	***
固定資産投資総額		億元、%	197	***	264	***	306	15.9	***	***
社会消費財小売総額		億元、%	181	***	200	***	224	11.7	249	11.4
消費者物価指数(前年１００)			***	***	***	***	***	***	***	***
輸出入総額(通関ベース)		億ﾄﾞﾙ、%	***	***	27.3	***	32.7	19.8	37.0	13.1
	輸出総額	億ﾄﾞﾙ、%	12.5	***	18.9	***	22.2	17.4	25.5	14.9
	輸入総額	億ﾄﾞﾙ、%	***	***	8.4	***	10.5	24.9	11.5	9.3
外商直接投資	契約件数	件	97	26.0	188	93.8	292	55.3	475	62.7
	契約額	億ﾄﾞﾙ、%	2.1	44.9	3.5	62.5	9.0	161.0	11.7	29.5
	実行額	億ﾄﾞﾙ、%	1.2	1.4	1.5	24.5	2.7	77.0	4.4	64.2

（備考）中国統計年鑑、浙江統計年鑑、2002年中国統計公報、2002年浙江省統計公報等にもとづき作成

ご意見をお聞かせください。

信金中央金庫　総合研究所
アジア業務相談室　行

今回の「アジア業務相談室情報 Vol.１９」について

今後、「アジア業務相談室情報」で取り上げてもらいたいテーマ

信金中央金庫総合研究所に対するご要望

差し支えなければご記入ください。

年　　月　　日

貴金庫（社）名　　ご芳名

ご担当部署・役職名

ご住所

ありがとうございました。信金中央金庫担当者にお渡しいただくか、総合研究所宛ご送付ください。

（〒104-0031　東京都中央区京橋３－８－１）
（Ｅ-mail：s1000790@FaceToFace.ne.jp）
（ＦＡＸ：03-3563-7551）